主催　青森県遊技業協同組合
協賛　㈱ヤクルト

第6回社会貢献活動　少年野球教室　特集号

七月二十八日青森市屋内グランド・サンドームで開催された少年野球教室の開催状況

元東京ヤクルトスワローズOB
指導員　杉浦　亨
　　花田　真人
　　中尾　敏浩

鳴滝ロイヤルズスポーツ少年団

幸畑スポーツ少年団

荒川スポーツ少年団

TOYOスポーツ少年団

筒井スポーツ少年団

浪打倶楽部スポーツ少年団

造道ベースボールボーイズ

合浦スポーツ少年団

小学生に打撃を指導する元ヤクルトスワローズの杉浦享さん（左手前）＝青森市浜田のサンドームで

プロの技に触れて

青森市

小学生100人にOBが熱血指導

プロの技に触れてもらおうと、少年野球教室（県遊技業協同組合など主催）が28日、青森市浜田のサンドームで開かれた。市内の少年野球チームの小学生約100人が参加し、約3時間半汗を流した。

07年から夏休み中に開催され、今年で6回目。92年の日本シリーズで史上初の代打サヨナラ満塁本塁打を記録した杉浦享さんら、元東京ヤクルトスワローズの選手3人が指導に当たった。

打撃練習では、松浦さんが一人一人を指名して「脇が開いている」「振りが弱い」とフォームやバットの振り方などを熱く指導。子どもたちは汗をぬぐうのを忘れてバットを振り込み、快音が球場に響いた。TOYOスポーツ少年団に所属する市立東陽小6年の木村大喜君（12）は「正しい打ち方を教えてもらい楽しかった。プロを目指して練習に励みたい」と声を弾ませた。【宮城裕也】

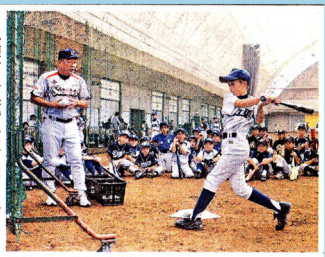
7月29日付
毎日新聞

7月31日付
陸奥新報

プロの技術学ぼう

青森でヤクルトOB招き野球教室

試合での心構えも指導


杉浦享さん（左）からバッティングの指導を受ける参加者

県遊技業協同組合（大西康弘理事長）は28日、プロ野球ヤクルトスワローズOBを招いた第6回少年野球教室を青森市の屋内グラウンド「サンドーム」で開いた。教室には青森市スポーツ少年団などチームから約100人の球児が参加し、手からトップレベルの技術を学んだ。

教室は同組合が社会貢献活動として2007年から開いており、これまでや五所川原市や弘前市などで実施。この日は元ヤクルトスワローズの外野手杉浦享さん、投手の花田真人さん、外野手の中尾敏浩さんの3人が指導に当たった。

参加者は基本のランニングやキャッチボール、バッティングなどの技術面のほか、試合や練習における心構えについても学んだ。杉浦さんは「バッティングの姿勢を教えてもらった。これからに生かしていきたい」と笑顔で話した。

（須々田一宏）

8月7日付東奥日報

遊技業協組が少年野球教室　ヤクルトOB招き

青森

県遊技業協同組合（大西康弘理事長）は7月28日、東京ヤクルトスワローズOBの3人を招き、青森市のサンドームで少年野球教室を開いた。同市スポーツ少年団の95人が、一つでも多くのことを学ぼうと、約3時間、練習に汗を流した。

同教室は今年で6回目。元外野手の杉浦享さん（60）と中尾敏浩さん（29）、元投手の花田真人さん（34）が走塁や守備、打撃などの基本技術を指導した。

杉浦さんたちは「脇を締めて、前の肩は開かないようにスイングしよう」「走塁では常に次の塁を狙う姿勢で」などとアドバイスしていた。

花田さんから投球の指導を受けた簡井スポーツ少年団の主将・堀井涼君（12）は「上から投げるようにしたらコントロールが良くなった。学んだことを、プレーに生かしたい」と話した。（本田海輝）

花田さん（右）から投げ方の指導を受ける子どもたち